

# デジタル技術による環境貢献評価事例 (2022年2月版)

**TOSHIBA**

株式会社 東芝、東芝デジタルソリューションズ株式会社

2022.2

## 注意

- ・本事例は、東芝デジタルソリューションズのソリューション導入効果事例を参照して評価したものです。
- ・評価は、東芝グループ地球環境会議体制の製品委員会で定めた方法に従って実施しています。

# デジタル技術による環境貢献評価事例

株式会社 東芝  
東芝デジタルソリューションズ株式会社

項目	内容	備考
1. 事例番号	1	
2. 評価実施時期	2021年7月	
3. 製品・サービス名、ビジネス名	RPA導入支援サービス	
4. 情報元	<a href="https://www.global.toshiba/jp/company/digitalsolution/case/articles/case2021/msk.html">https://www.global.toshiba/jp/company/digitalsolution/case/articles/case2021/msk.html</a>	当社ホームページでの公開記事
5. デジタル技術要素※	自動化	
6. 導入効果	東芝の「RPA導入支援サービス」を採用することで、 <b>自動化</b> する業務の絞り込みから対象部門へのヒアリング、効果的な自動化ツールの選定、開発・運用基準の策定、体制の整備などにより <b>年間20,000時間以上の時間削減</b> （業務自動化全体で約76,000時間）に成功。特に自然災害など突発的な業務に対しても大きな成果が得られることとなった。	「4.」記載の記事より引用
7. 環境貢献※	<p>【パラメータ定義】時間：労働時間 <b>8時間/人・日</b> …①</p> <p>【原単位】従業員数・勤務日数当たり排出原単位&lt;事務局&gt; (*) オフィス／大都市 <b>0.985 (kgCO2/人・日)</b> …②</p> <p>【算定実施】 削減した時間労働時間 = 20,000時間 ÷ ② = 20,000時間 ÷ <b>8時間/人・日</b> = 2,500人・日 …③</p> <p><b>CO2削減貢献量</b> = ③ × ② = 2,500人・日 × <b>0.985kgCO2/人・日</b> = 2,462.5kgCO2 = <b>2.5tCO2</b></p>	(*) 環境省ホームページ「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム サプライチェーン排出量算定から脱炭素経営へ 算定時の参考資料 排出原単位データベース」を使用 【URL】 <a href="https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/estimate_tool.html#no07">https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/estimate_tool.html#no07</a>

※一般的に公開されている技術情報等に基づいて当社が定めた評価方法により実施しています。

# デジタル技術による環境貢献評価事例

株式会社 東芝  
東芝デジタルソリューションズ株式会社

項目	内容	備考
1. 事例番号	2	
2. 評価実施時期	2022年2月	
3. 製品・サービス名、ビジネス名	知財管理サービス	
4. 情報元	<a href="https://www.global.toshiba/jp/company/digitalsolution/case/articles/case2021/mkn.html">https://www.global.toshiba/jp/company/digitalsolution/case/articles/case2021/mkn.html</a>	当社ホームページでの公開記事
5. デジタル技術要素※	自動化	
6. 導入効果	特許検索連携では、特許庁整理標準化データを自動取得しデータ精度を向上、また、引例の表示連携などによりコスト／時間の削減を実現。ワークフローを標準機能のみで実現し、転記作業などの工数が <u>10分の1にまで削減された</u> ほか、 <u>ペーパーレス化でテレワークへの移行もスマート</u> に。	「4.」記載の記事より引用
7. 環境貢献※	作業で発生する <u>CO2排出量を90%削減</u>	

※一般的に公開されている技術情報等に基づいて当社が定めた評価方法により実施しています。